

除草剤グリホサート誘発性雄性不稔及び除草剤グリホサート耐性トウモロコシ MON87427 系統、チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON89034 系統並びに除草剤グリホサート耐性トウモロコシ NK603 系統からなる組合せの全ての掛け合わせ品種（既に食品健康影響評価の終了した品種*を除く。）に係る食品健康影響評価について

1. 経緯

遺伝子組換えトウモロコシ「除草剤グリホサート誘発性雄性不稔及び除草剤グリホサート耐性トウモロコシ MON87427 系統、チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON89034 系統並びに除草剤グリホサート耐性トウモロコシ NK603 系統からなる組合せの全ての掛け合わせ品種（既に食品健康影響評価の終了した品種*を除く。）」については平成25年4月5日付けで遺伝子組換え食品の安全性審査の申請があったことから、食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項の規定に基づき、食品安全委員会に食品健康影響評価を依頼するものである。

2. 評価依頼品種の概要

本品種は別紙の表の遺伝子組換えトウモロコシを伝統的な育種の手法を用いて掛け合わせたものである。

3. 利用目的及び利用方法

本品種の食品としての利用目的や利用方法は、従来のトウモロコシと相違はない。

* 既に食品健康影響評価の終了した品種

- ・チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON89034 系統及び除草剤グリホサート耐性トウモロコシ NK603 系統を掛け合わせた品種

(別紙)

項目	概要		
品種	除草剤グリホサート誘発性雄性不稔及び除草剤グリホサート耐性トウモロコシ MON87427 系統	チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON89034 系統	除草剤グリホサート耐性トウモロコシ NK603 系統
製品の概要	改変 <i>cp4 epsps</i> 遺伝子の導入によって改変 CP4 EPSPS タンパク質が発現し、除草剤グリホサートに耐性を示す。 さらに、プロモーター領域等の働きにより、雄性生殖組織においては改変 CP4 EPSPS タンパク質が発現されないか発現されても微量であるため、グリホサート散布によって花粉形成が抑制され、雄性不稔となる。	<i>cry1A.105</i> 遺伝子及び改変 <i>cry2Ab2</i> 遺伝子の導入によって <i>Cry1A.105</i> タンパク質及び改変 <i>Cry2Ab2</i> タンパク質が発現し、チョウ目害虫（フォールアーミーワーム等）に抵抗性を示す。	改変 <i>cp4 epsps</i> 遺伝子の導入によって改変 CP4 EPSPS タンパク質が発現し、除草剤グリホサートに耐性を示す。
宿主	デント種のトウモロコシ (<i>Zea mays</i> L.)		
挿入遺伝子 (供与体)	改変 <i>cp4 epsps</i> 遺伝子 (<i>Agrobacterium</i> sp. CP4 株)	<i>cry1A.105</i> 遺伝子 (<i>Bacillus thuringiensis</i> subsp. <i>kurstaki</i> 及び <i>Bacillus thuringiensis</i> var. <i>aizawai</i> 由来) 改変 <i>cry2Ab2</i> 遺伝子 (<i>Bacillus thuringiensis</i> subsp. <i>kurstaki</i> 由来)	改変 <i>cp4 epsps</i> 遺伝子 (<i>Agrobacterium</i> sp. CP4 株)
選抜マーカー (供与体)	含まれていない	含まれていない	含まれていない
新たに獲得された性質	除草剤グリホサート耐性 除草剤グリホサート誘発性雄性不稔	チョウ目害虫抵抗性	除草剤グリホサート耐性
安全性審査を経た旨の公表 (官報告示日)	官報掲載手続き中	2007 年 11 月 6 日	2001 年 3 月 30 日